



日本心臓血管麻酔学会 第25回学術大会 ランチョンセミナー4

誘電スペクトル解析法による新しい血液凝固分析装置 SPOTCHEM HS HS-7710：その実力は？

配信期間：2020年9月20日(日) 正午 ～ 11月14日(土) 正午

講師

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 心肺統御麻酔学分野
教授 内田 篤治郎 先生

※本セミナーはWebセミナーです。

期間中、いつでもご視聴いただけます。

詳細につきましては、学会ホームページをご確認ください。

<http://www.jscva.org/AnnualMeeting/2020/>

本セミナー視聴後、スライド終了時に表示されますQRコードよりアンケートへのご協力をお願いいたします。
該当項目へご回答いただきました方先着100名様にノベルティをプレゼントさせていただきます。
詳細につきましては、アンケートページをご確認ください。

日本心臓血管麻酔学会 第25回学術大会 ランチョンセミナー4
誘電スペクトル解析法による新しい血液凝固分析装置
SPOTCHEM HS HS-7710 : その実力は？

SPOTCHEM HS HS-7710は、テストウェル内で血液を2つの電極で挟み込み、カルシウムの添加とともに進行する凝固反応について、カートリッジを一つのコンデンサーと見立て、電気的性質の指標である誘電率の変化としてとらえる新しいポイントオブケア型の血液凝固分析装置である。2 mLの凝固採血管と最大4個の測定用カートリッジをセットし、タッチパネルを操作することで内因系 (IN)・外因系 (EX)、および、ヘパリーゼ添加内因系 (HN)、トラネキサム酸添加外因系 (LI) および、カルシウム添加反応下 (CA) での凝固を全自動で評価できる。これらの測定用カートリッジは個別包装であり、検査の組み合わせをカスタマイズでき、必要な検査だけをセットできる。従来の凝固検査では凝固活性化剤を添加した後の凝固開始時間、血餅強度の測定を光学的、または物理的に行う手法がとられているが、SPOTCHEMでは、フィブリン形成の進行に伴う誘電率の変化から、凝固開始時間及び、また、血餅強度に相関する指標については、血餅の成熟度という観点から、フィブリン構造の成熟を電気的なパラメーターとして測定する。検体に対して力学的なストレスを加えないため、反応進行中の未成熟な血餅構造にダメージを与えることなく凝固反応の評価が可能である点が一つの特徴であり、特に凝固時間から判断される凝固系の活性評価に優れている。本講演では、心臓手術での臨床的な実用性について紹介するほか、研究段階にあるトロンビン生成能評価を軸とした測定系の紹介、DOACの薬効評価、COVID-19患者における測定結果からの考察といった話題を取り上げ、SPOTCHEM HS HS-7710の可能性について考えてみたい。

血液凝固分析装置

SPOTCHEM HS

スポットケム HS HS-7710 | 凝固

新しい測定原理を用いた
国産の血液粘弾性検査装置

HS-7710 製品情報ページ
測定原理についての動画もこちらから



HS-7710

検索

